NEWS［ニューズ］ RRM Regional Resource Management

ニューズ RRM の創刊によせて

Greetings ——— 研究科長 江崎保男

黄金色に染まっていた前の田んぼが一斉に冬色になる一方、後ろの山は見事な紅葉に変わり、ジオ・コウノトリキャンパスが晩秋をむかえています。当研究科のニュースレター「ニューズRRM」がスタートを切ることになりましたので、ここに創刊にあたってのご挨拶を述べさせていただきます。

兵庫県北部に位置する但馬地方初の大学院として当研究科がスタートしたのは、昨年2014年4月のことでした。この大学院の設立までには、実は15年の歴史があります。はじまりは、県立コウノトリの郷公園開設にあわせた県立大学自然・環境科学研究所田園生態系の立ち上げでした。県立人と自然の博物館の発足時（1992年）に「教授制をとる県立博物館」という兵庫県独自の工夫により誕生した同研究所のシステムが、コウノトリの野生復帰という「科学理論を基盤とする実践」が求められる郷公園にも適用されたのです（1999年）。第2ステップは、2010年、コウノトリの郷公園に付加された「ジオ環境研究部」でした。当時、山陰海岸ジオパークの国際認定に向けて、ジオパークに研究機能を付与することが求められたのです。そして、第3弾が、コウノトリとジオパークに人文社会科学を上乗せして、ふたつの自然科学との文理融合、さらには統合を果たそうというRRMの誕生だったのです。

地域資源マネジメントという名称には「長すぎる・わかりにくい」というお叱りを頂戴することもありますが、そこには15年の歴史を集約する意味が込められています。まず「地域資源」とは、「地域に固有の歴史を有する資源」のことです。この地のコウノトリは城崎温泉の縁起に始まる1400年の歴史に裏打ちされており、山陰海岸ジオパークに至っては、1400万年前の日本海と日本列島の成立に始まる実に長い歴史をもっているのです。そして歴史は「人の記憶を辿る」ものなので、これらを統合するには、人の社会と文化を扱う人文社会科学が必須という訳なのです。次に「マネジメント」ですが、ここでの意は「うまくやること」です。野球のマネージャーをイメージしていただければわかるかと思います。

RRMでは「地域資源の統合的研究とウイズユースによる地域振興」をめざしています。そして対象となる地域資源は、コウノトリやジオパークに限られる訳ではありません。たとえば文化資源は奈良や京都に限らず、どの地にも存在するのであり、それらを発掘するとともに「活用することによって保全する」。そのためには科学・学問の裏付けが必要不可欠だと考える次第です。

皆様に、RRMのことを知っていただき、最新情報をお届けする、そのために教員と学生が一致協力して面白いニューズRRMをつくっていく所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。

Information

冬のオープンキャンパス

Information 01

大学院の受験を具体的に考えている方、興味がおありの方へ。オープンキャンパスでは、大学院や入学試験の概要を紹介し、施設・展示のご案内をいたします。今年度は、12月26日（土）午後と、1月24日（日）午後、豊岡ジオ・コウノトリキャンパスで開催します。具体的な研究テーマや学習についての相談も可能です。

平成 28 年度入学生募集

Information 02

博士前期課程・博士後期課程ともに下記の予定で入学試験を実施します。

博士前期課程（C日程）・博士後期課程（第2回）

試験区分	募集人員	出願期間	試験日
【博士前期】 一般選抜 特別選抜 （社会人・推薦・外国人学生）	若干名	平成28年 2月10日（水）～ 21日（日） 事前に受験資格審査が必要な場合は、1月29日（金）～2月14日（日）に審査書類をご提出ください。	平成28年 3月5日（土） 11:00～ 豊岡でも神戸でも受験できます。
【博士後期】 一般選抜 特別選抜 （社会人・外国人学生）	若干名	平成28年 2月10日（水）～ 21日（日） 事前に受験資格審査が必要な場合は、1月29日（金）～2月14日（日）に審査書類をご提出ください。	平成28年 3月5日（土） 11:00～ 豊岡でも神戸でも受験できます。

大学院を“味見”しよう！

Information 03

1．大学院体験レクチャー

大学院地域資源マネジメント研究科とは、何を勉強するところ？豊岡ジオ・コウノトリキャンパスって、どんなところ？　私たち大学院のことを広く知っていただくため、大学院体験レクチャーと題して、模擬講義、教員や学生との懇談、施設見学を実施します。大学院に興味をお持ちの方のご参加をお待ち申し上げます。参加費は無料です。

日時／ 2016年1月31日（土） 13：30～16：00

場所／ 兵庫県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパス（県立コウノトリの 郷公園内）

内容／ 大学院の紹介と、模擬講義、教員・学生との懇談会など

2．いつでも体験フィールド！in大学院

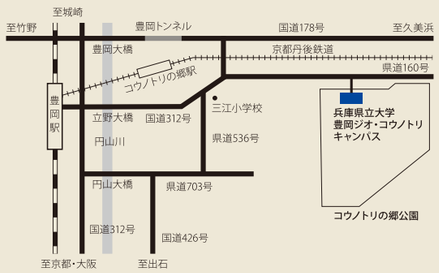
私たちの大学院は、フィールドで考えることが特色のひとつ。豊岡や山陰海岸ジオパークのフィールドを、教員や院生と一緒に体感してみませんか？　「いつでも体験フィールド！in大学院」は、ジオ・エコ・ソシオの3分野から希望する分野を選び、フィールドワークやセミナーなどを実際に体験できるものです。大学院に関心がある方を広く受け入れます。ご希望の方はメールにてお申し込みください。具体的な内容・日時をご相談させていただきます。

［お問い合わせ］

各催しの詳細はHPをご覧ください。あるいはメール、電話にてお気軽にお問い合わせ下さい。

兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科 RRM

〒668-0814 豊岡市祥雲寺128（兵庫県立コウノトリの郷公園内）
兵庫県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパス
Tel. 0796-34-6079　Fax. 0796-22-5200
E-Mail: u_hyogo_toyooka@ofc.u-hyogo.ac.jp
http://www.u-hyogo.ac.jp/rrm/



UNIVERSITY OF HYOGO
発行：2015年11月

写真提供：田和康太（表紙・水田とアカトンボ、計4点）
西井 喜久（コウノトリ）
中井淳史（壺、庭園、計2点）
山本大寛（宇日流紋岩）

大学院生による地域資源マネジメント研究科 RRMの紹介

私たち大学院地域資源マネジメント研究科は、開設2年目を迎え、陣容が徐々に整ってきました。来年度からは3年制の博士後期課程も開設されます。ジオ（地球科学）分野・エコ（生態学）分野・ソシオ（人文社会科学）分野と、文系・理系の枠を超えた新しい発想で地域の課題に取り組み、地域の資源を活用しながら保全してゆくことが私たちの目標です。第1号となる本ニュースでは、教室で、時に野外で活動する現役大学院生に、各分野の紹介をしていただきました。

RRM INTRODUCTION
TOYOOKA GEO & KOUNOTORI CAMPUS

GEO
ジオ分野について

M1・山本大寛

大学院のある兵庫県北部は「山陰海岸ジオパーク」の一部です。ジオパークには地球科学上貴重な地域資源が多く含まれます。これらの価値を評価し伝えていくこと、さらにツーリズムなどを通じて地域の経済発展につなげることがジオパークには求められています。ジオ分野では、地球科学的方面から各地域資源の学術的価値や人との暮らしの関わりを明らかにし、それらを活用しながら保全を進めるための研究をしています。

ジオ分野の現在の人数は教員3名、学生6名で構成されています。少人数のため、充実した指導を受けることができます、毎回のゼミの内容は濃いです、長丁場です。

現在ジオ分野の学生が行っている研究は、地層や岩石が形成された環境や時代を明らかにすることを目的とする基礎的な研究から、地質と防災・学校教育・土地利用を結びつける研究、ジオパークにおける効果的なアクティビティに関する研究など幅広い研究をしています。

また、地域に残る伝統行事のお祭りやイベントに積極的に参加して地元住民との交流を積極的に行っています。そうして仲良くなっていくと、時には新鮮な真鯛をいただいたりもします。院生室で解体ショーをしたり、塩焼きにしたりして美味しくいただきました。

地域には、まだまだたくさんの資源（宝）が眠っています。この研究科で、それぞれの専門分野から宝を一緒に掘り起こしませんか？

SOCIO
ソシオ分野について

M1・川﨑由美子

ソシオ分野では、人々が周囲の自然環境を利用して生活を営むなかでつくりだした、さまざまな歴史的・文化的産物（史跡、伝承、民俗、文化財）、街並や人々の暮らしの知恵を調査・研究するとともに、現代や未来の社会の中でこれらに貴重な「地域資源」として新たな価値を与え、どのような保全・活用をしていくことができるかといった実践的な問題まで視野に入れた研究や教育活動を目指しています。

但馬には歴史的・文化的に優れたフィールドがたくさんあり、個々の興味に沿ったテーマでのびのびと研究できる環境があります。

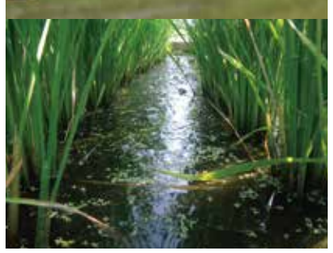
普段のゼミでは、学生がそれぞれの活動報告を行なったり、論文を読んでお互いに意見を出し合ったりしています。現在所属している学生は年代や立場も幅広く、それぞれの経験に基づいた視点から熱く議論しています。

また、授業でもフィールドに出ることがあります。夏には授業の一環として個々で地域に出かけてアンケート調査を行いました。現場の声を聞くことで地域の現状と課題への理解を深める良い機会となりました。

学生一人ひとりの研究テーマは多様で幅広いですが、共通して言えることは、現場を生きる住民の営みにあらゆる面から光をあて、地域における住民の生活を豊かにするための研究を行うということです。先生方の専門分野も多様なので、様々な視点からアドバイスをいただけ有意義な研究ができます。

ECO
エコ分野について

M1・松山圭希



エコ分野では、生態学・生物学の学問領域を柱としながら、地域社会、特に農業や河川行政との関係を調査研究しています。コウノトリ野生復帰事業において、コウノトリの生態に関する研究はもちろんのこと、「コウノトリ育むお米」や「河川改修・整備」などの環境づくりに関する研究も求められています。そしてこれらの研究は、河川水田生態系の現状把握と、その改善を図る施策に活かされます。

〔エコの学生が考えた分野の魅力〕

1つは、まず「フィールドとの距離」です。豊岡盆地では田畑や川が広がっており、コウノトリをはじめとする多くの生物が生息しています。通学途中はもちろん、大学院の窓を開けると目の前にコウノトリということも。豊岡での生活場所が全てフィールドといっても過言ではありません。

2つ目は、「多様な先生陣」です。コウノトリなどの鳥類はもちろん、水田や河川の魚類や両生類といった動物、植物など各専門の先生がいます。ゼミでは、これらの先生と共に、内容の濃い議論を行っています。

3つ目は、「地域とのつながり」です。野生復帰には、多くの組織機関や住民の協力が不可欠となります。これらの人と情報・意見交換できることで、より研究を深めることができ、さらには研究成果がその場で活かされます。